

議 事 概 要

協議会名称	伊勢市地域包括ケア推進協議会(第3回)
開催日時	令和3年12月6日(月) 13:30~15:00
開催場所	伊勢市役所 本館3階 委員会室
出席した委員	萩吉康、徳田敦、村瀬広和、前村裕司、斎藤茂、本村鏡一、中村龍平、森川和俊、脇海道友美、西出裕一、二ノ宮尚美、黒精美行、水島徹、岡本忠佳、北村鈴代、赤坂知之 計16名
欠席した委員	小林裕典、杉山謙三、前島賢 計3名
出席した事務局職員	江原(健康福祉部長)、大井戸(健康福祉部次長)、浦井(介護保険課長)、藤川(主幹兼介護認定係長)、山本(介護保険料係長)、竹原(介護監査係長)、中村(介護給付係長)、高村(健康課副参事)、杉浦(主幹兼健康づくり係長)、中山(高齢・障がい福祉課主幹)、中川(高齢福祉係長)、小林(福祉生活相談センター長)、田代(総合相談係長)、中村(共生事業係長)、服部(地域福祉係長)、小川(連携調整係長)、世古口(医療保険課長) ※計17名
傍聴者	3名
議題及び協議概要	<p>1 地域密着型サービス事業所等の指定等について「資料1、資料1-1」</p> <p>○地域密着型サービス事業所等の指定等について、事務局から資料に沿って説明</p> <p>委員「定員を25名から18名に変更し、通所介護を廃止して地域密着型通所介護とした事業所について、その理由は何か。」</p> <p>事務局「実際の利用者の人数に合わせたようである。」</p> <p>委員「新規指定について、法人の電話番号が携帯のみで固定電話やFAXもないが信頼できるのか。信頼性をどのように担保しているのか。」</p> <p>事務局「指定基準を満たすことを指定の基準としている。固定電話についての規定はない。」</p> <p>委員「信頼性を再度確認してはどうか。」</p> <p>事務局「再度、確認させていただく。」</p> <p>→了承</p>

2 地域包括支援センターの運営について「資料2」

○地域包括支援センターの運営について、事務局から資料に沿って説明

→了承

3 認知症にやさしいまちづくり分科会について「資料3」

○認知症にやさしいまちづくり分科会について、事務局より資料に沿って説明

委員「子供を対象とした事業はやっているのか。」

事務局「小学生を対象とした認知症サポーター養成講座等を行っている。」

委員「チームオレンジの立場がよく分からない。バッジを付けている人はどういう活動を行っているのか。」

委員「地域で活動している人にステップアップ講座の案内があり、グループを作って活動することになるとバッジを受け取る。」

事務局「今後は、認知症サポーター養成講座の際に案内をさせていただきます。」

委員「サポーターの役割がはっきりしていない。オレンジリングを付けている人は何ができるのか、それを見た人が分かるようにしなければならない。」

事務局「サポーターには、認知症への理解を深めることと、見守りをしていただくことを目的としている。また、現在はオレンジリングの配付は終わり、修了証の発行になっている。」

委員「認知症は家族が隠そうとすることもあり、協力ができない。家族も本人もサポートを受けやすくする啓蒙が重要である。」

委員「スローショッピングについて、買い物をする場所への移動はどうするのか。サポーターの協力で行うのか。」

事務局「今回は実験的に行うため、お店への移動は家族にもらい、買い物のスローショッピングのサポートを考えている。」

委員「スローショッピングを行うには、十分な通路幅が必要である。そうでないと車椅子が回転できないし、車椅子同士が交差できない。」

委員「移動は、玉城町のオンデマンドバスや、ぎゅーとらいこカーを参考にしてはどうか。」

委員「今後、移動の問題など色々出てくると思うのでご検討ください。」

→了承

4 その他

○事務局より、下記のとおり報告

- ・看護小規模多機能型居宅介護の整備事業者の公募結果について
先日書面にてお知らせしたとおり、公募に対して応募がなかったため、第8期介護保険事業計画の計画期間内である令和4年度に改めて再公募を行う予定である。詳細が決まり次第お知らせする。
- ・次回の協議会の開催について、3月頃の開催を予定している。